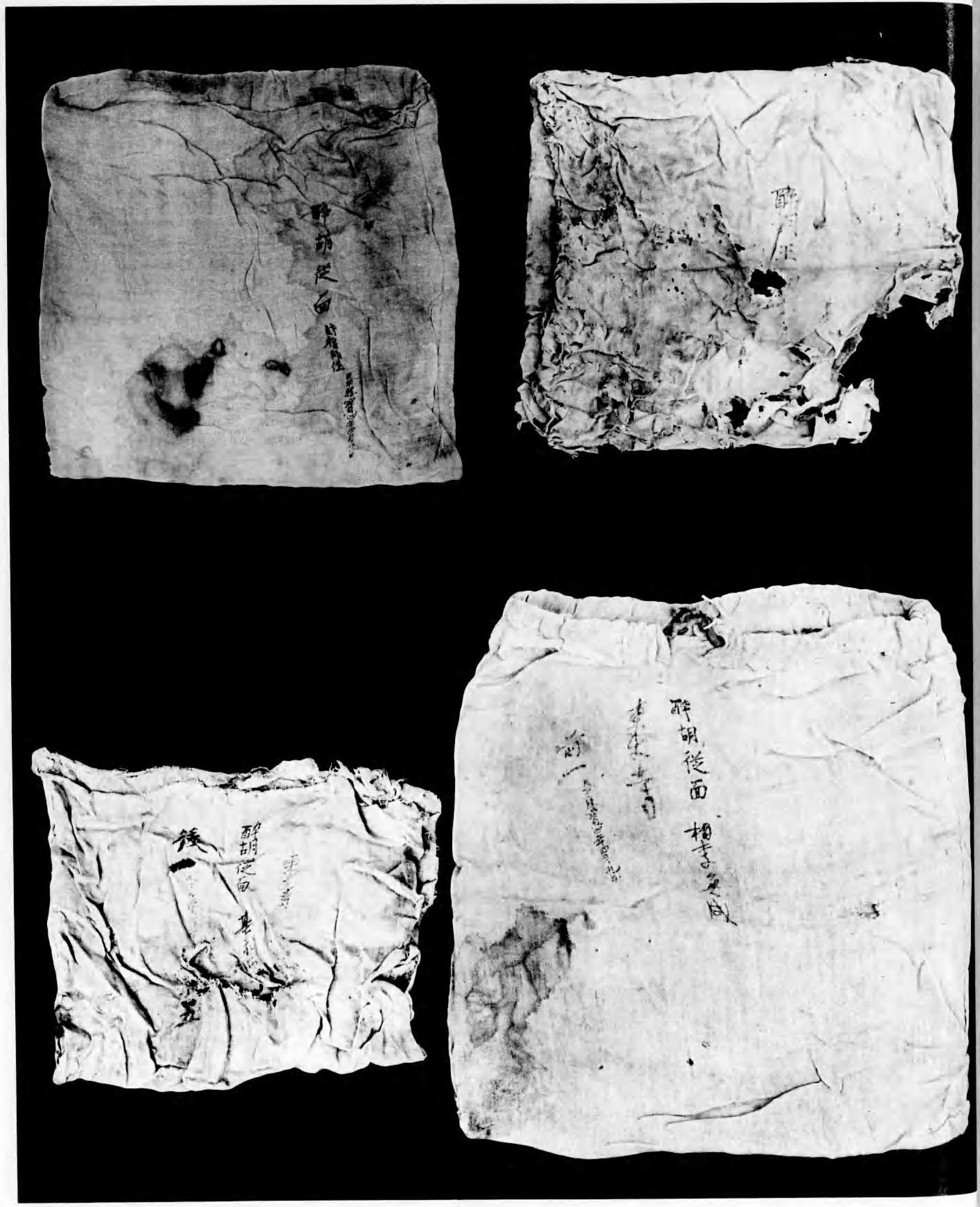
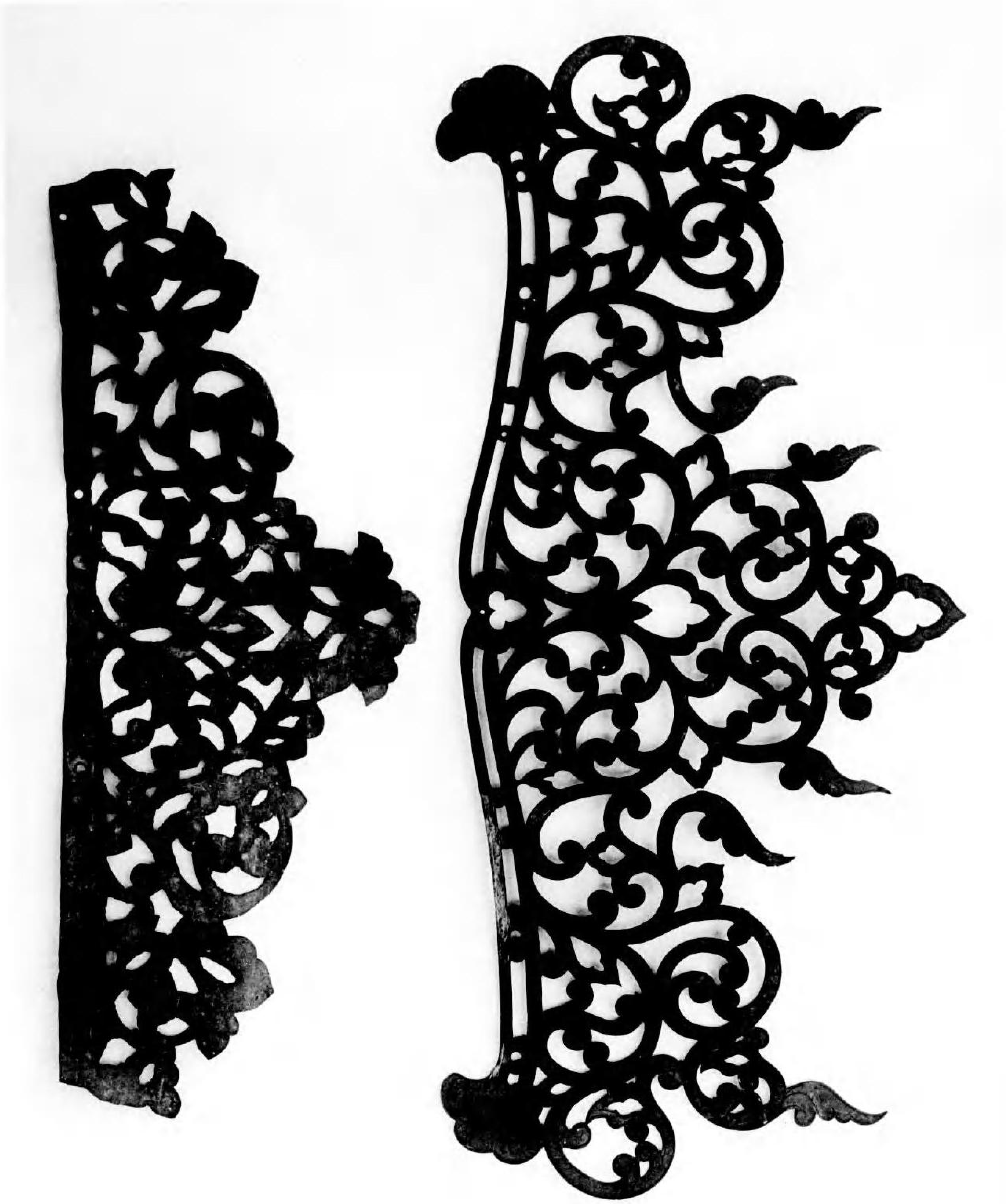

酔胡従面
酔胡従面
酔胡従面

第四十九圖　金銅透彫冠

【上】長五三・〇糎　高二二・五糎　厚〇・一糎　重三三〇瓦
【下】長四三・〇糎　高一六・〇糎　厚〇・一糎　重二三五瓦

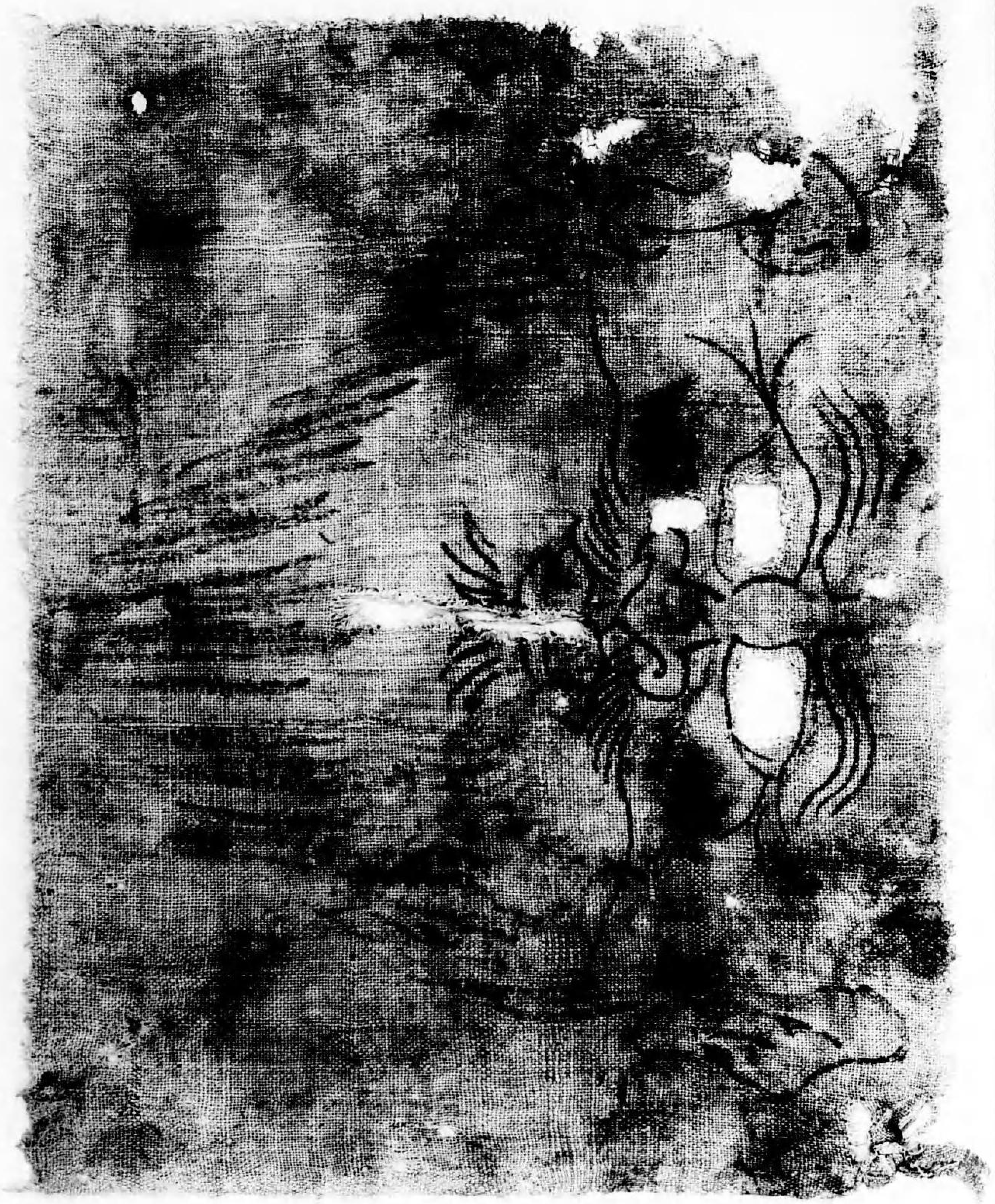
共に三角形の銅板を透して均正唐草模様をあらわすが、上圖の精巧鋭利なるに對し、下圖は稚拙疏調である。しかし唐草の性質は蔓草の股に花を咲かせ末端に子葉を伸ばすことにおいて共通し、又下方釘孔を穿っている事も兩者甚だ似る。而してその釘孔こそこの冠が何かに釘着されて用いられたことを示すもので、伎樂面中にこれを求むる時、あたかもよし呉公面の頭髪廻りに釘孔の存する事は、それがもと呉公面に附屬したものではないかと思われる。因に呉公面に冠を附する事は西大寺資財帳にも見られる。



第五十一圖　布作面（第二號）　（縮寫 4/5）

竪 二六・七糎　横 二二・八糎

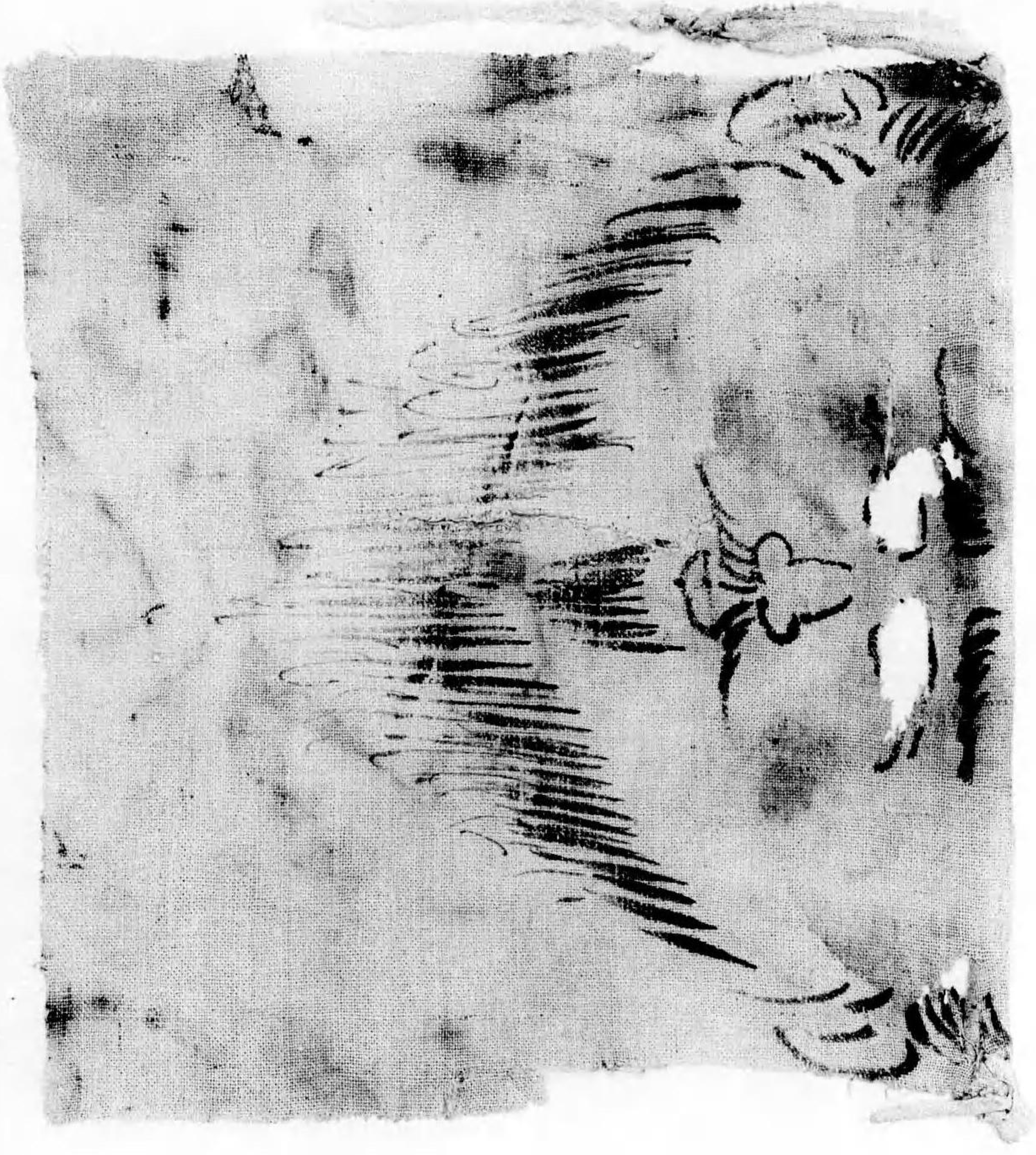
肥痩なき鐵線の如き描線で、眉・目・鼻・口・ひげ等を力強く表わし、その大きく見張つた眼の中央を黒瞳状に布を切つて透し、口と兩頰には丹を塗り以つて忿怒の相を示す。但し、額中心部の彩描の僅かなるに反し鬢髯と耳の表現は甚だ無雑作である。結紐は共裂で左上にのみ殘る。



第五十二圖　布作面（第三號）　（縮寫 3/5）

竪 三三・三糎　横 三四・八糎

正方形に近い麻布の上半分に片寄せて、漫畫的な顔を描き、眼は輪郭なりに切り抜き、兩頰には丹を塗り、耳邊に結紐をつける。額を上寄せて描くは、布作面を着ける場合、下方を眼窩中に入れる事を豫想したためであろう。又紐兩脇下の布裂の一部缺けているのは、此裂を短冊形に切つて紐に作られている事を察せしめる。



第五十三圖　布作面（第五號）　（縮写 3/5）

竪 四六・〇糎　横 三五・〇糎

布作面中唯一の女性をあらわしたものである。細地の痲布の上半分に女の顔を描き、眉目は墨、口は朱で塗りつぶして墨界を加え、髪は漫然墨を塗つて耳の輪廓のみ白く殘す。思うにこの面は前三者の布作面と異り、上部で頭をつつみ下部を襟の中に入れて着用する事を最初から豫想して、かく竪長に作られたものの様である。

なお下端に墨書して「美知王」「薩痲豊繼」とあるも、それが何を意味するか不明である。

第五十二圖　菩薩面

第五十四圖　布作面（第四號）

（縮寫 2/5）

竪 三五・〇糎　横 四〇・〇糎

朽損は多いが、なお全形をほぼ想像する事が出來る。顔はまた布の上半分に描かれ、眼尻が下り、鼻が小さく、口髭が上に巻いて異國的な風貌をしている。頤鬚・頬髯を淡墨と濃墨とで書きわけているのは布作面では珍らしい。頬に丹を塗る。

布作面（第六號）

（縮寫 2/5）

竪 三四・〇糎　横 四〇・〇糎

目を文字通りの三角形に切り抜き、眉を濃く太く書いている事に特徴があり、神經質で意地の惡そうな人柄が想像される面である。また頬に丹を塗り左上三分の一を失う。

玻第五八號

第五十五圖　布作面（第七號）　（縮寫 2/5）

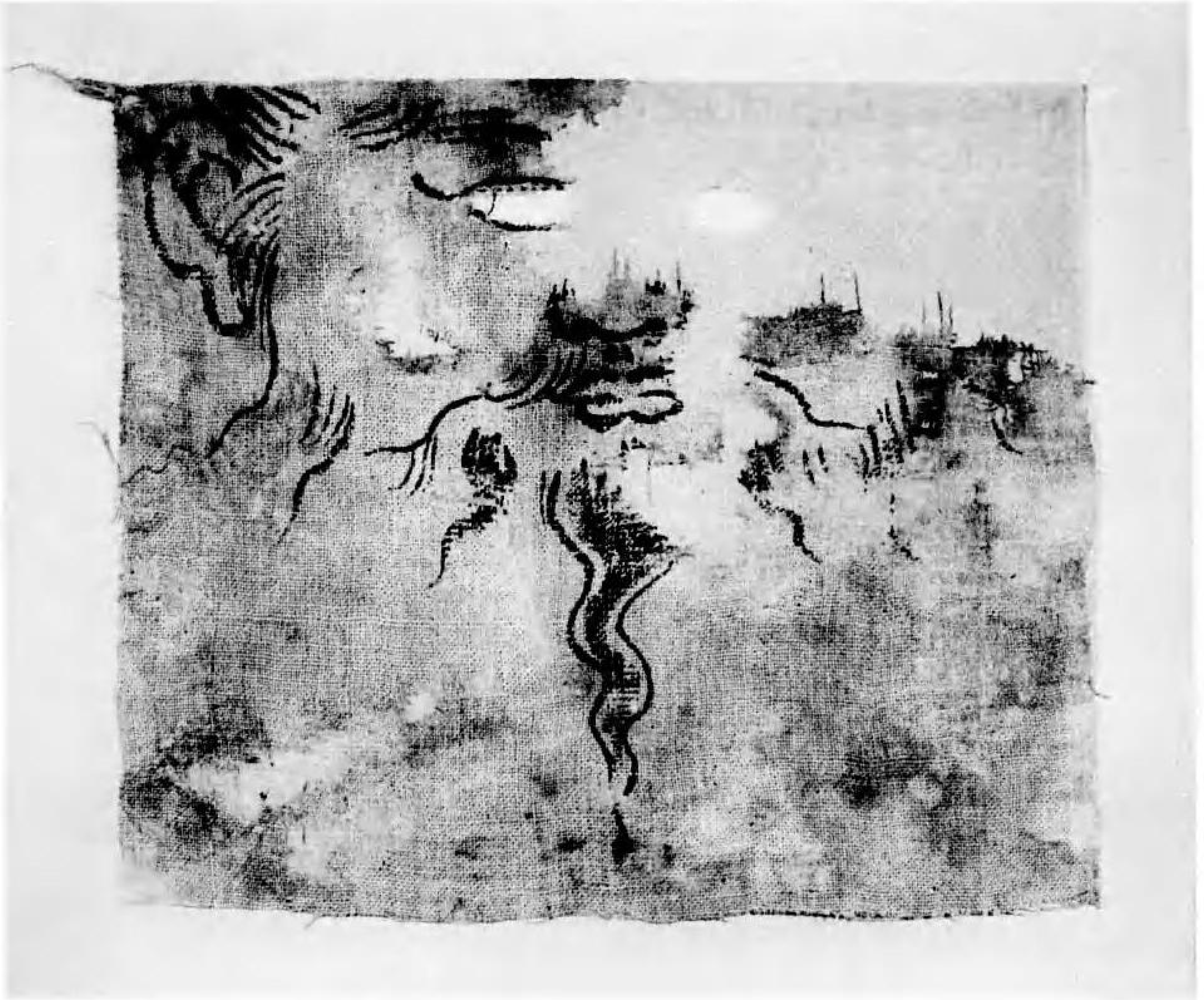
竪 三七・〇糎　横 三五・〇糎

眉目は揚り、鼻は大きく、ひげは多く、且つ頬を赤くした堂々たる偉丈夫の相をしている。鼻の形は伎樂面の鼻に似て最も力強い。

布作面（第八號）　（縮寫 2/5）

竪 三〇・〇糎　横 三四・〇糎

左上を缺く。溫厚の君子を思わせるような貌で、その線描もしつかりしている。專門畫師の作るところであろうが、頰には紅を點じ、右上の紐僅に殘る。



第五十六圖　布作面（第九號）（縮寫 $\frac{1}{3}$）

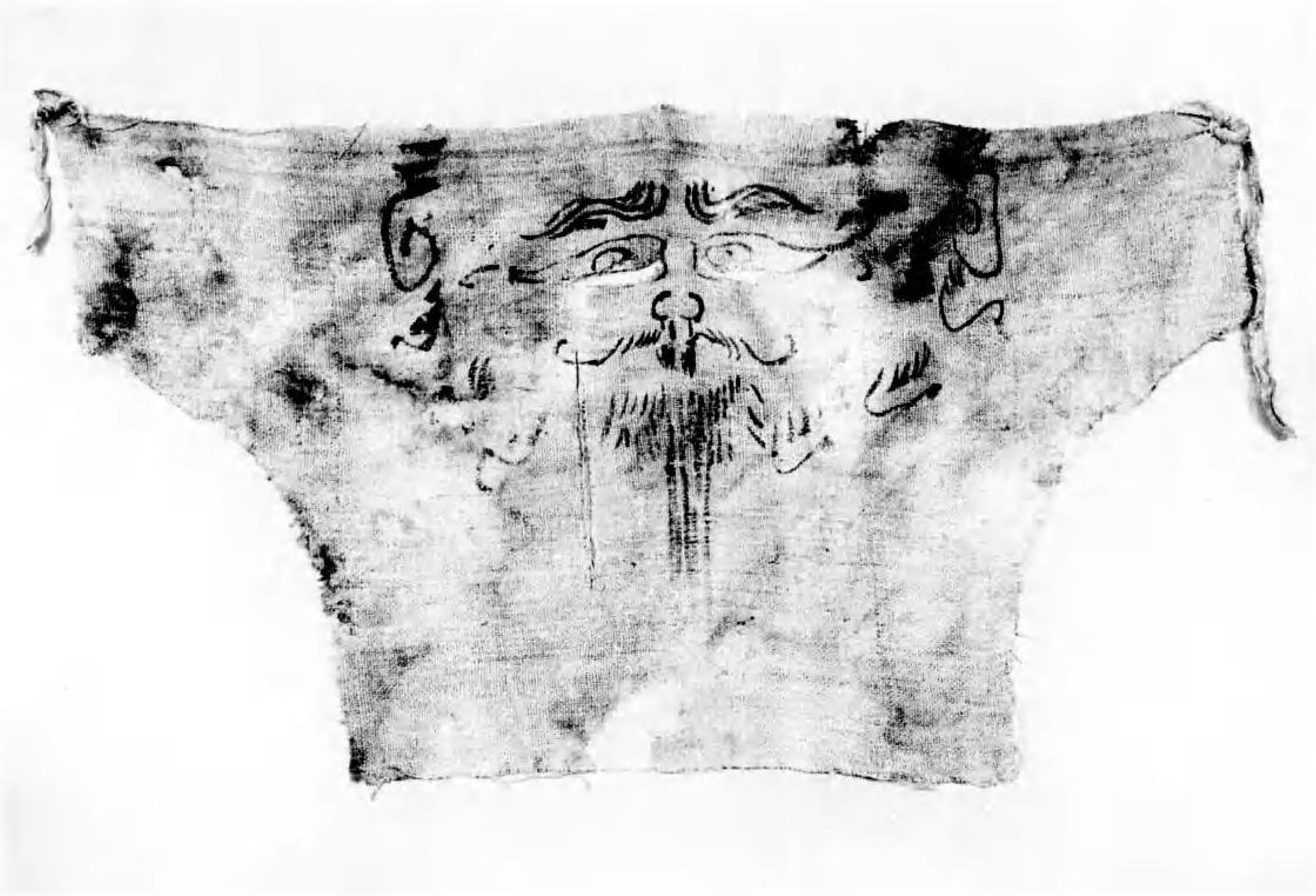
竪 三三・〇糎　横 五九・〇糎

その形奴凧の如く、布作面としては全く特殊の存在である。顔の表情は中老を思わせるも、「八」の字形の太い眉、目尻の下つた大きい目、それに小さい鼻に小さい口の配在は、全く滑稽そのものである。頰と耳には丹を塗り、目は輪廓なりに透さずして下瞼のみを切つている。なおこの面の右頤に縦の切傷があるが、何のためのものか不明である。

布作面（第十號）（縮寫 $\frac{2}{5}$）

竪 三六・〇糎　横 三七・〇糎

また下瞼を切り透した、さがり目の面であるが、鼻と口髭の表現に特徴がある。頰と口と耳を赤く塗り、口と右頰とに縦の切傷がある。なおこの面は結紐を上中二段につけたもののようである。



第五十七圖　布作面（第十一號）　（縮寫 2/5）

竪 三〇・〇糎　横 三六・〇糎

偉丈夫の相をなし、線描は粗雑だが慣れた筆致を見せ、布作面第七號と同一作者ではないかと思われる。頰と口は赤く染め、眼は瞳孔だけを透かす。この面珍らしくも兩紐を共に存している。

布作面（第十二號）　（縮寫 2/5）

竪 三〇・〇糎　横 三七・〇糎

その慣れた線描は專門畫師の手になつたものと思われる。目は下瞼を切り透し、口・頰・耳・眉下等をそれぞれ赤く塗る。また兩紐を存するも、鼻から口にかけて縦の切傷がある。

第五十八圖　布作面（第十三號）　（縮寫 2/5）

竪　三四・〇糎　横　二六・〇糎

長方形の麻布の上半に描く。ひげの多い、目尻の下つた中年相をなし、頰は赤く染め、鬚髯は濃墨と淡墨とでかき分け、目は輪廓一杯に透す。その筆致が前掲五十六圖の布作面第十號に似るは同一の作者であろうか。鼻下と右頰と二ヶ所に縱の切傷がある。

布作面（第十四號）　（縮寫 2/5）

竪　三三・〇糎　横　三七・〇糎

長方形の布を横にして用う。眉目の表情は布作面第七・第十一號の如く堂々たる偉丈夫をめざすようではあるが、筆力彼に及ばず素人畫に近い感じがする。目は輪廓なりに透し、頰と額を赤に染め、結紐は共裂で作る。又右頰に縱の切傷がある。

第五十九圖　布作面（第十五號）　（縮寫 2/5）

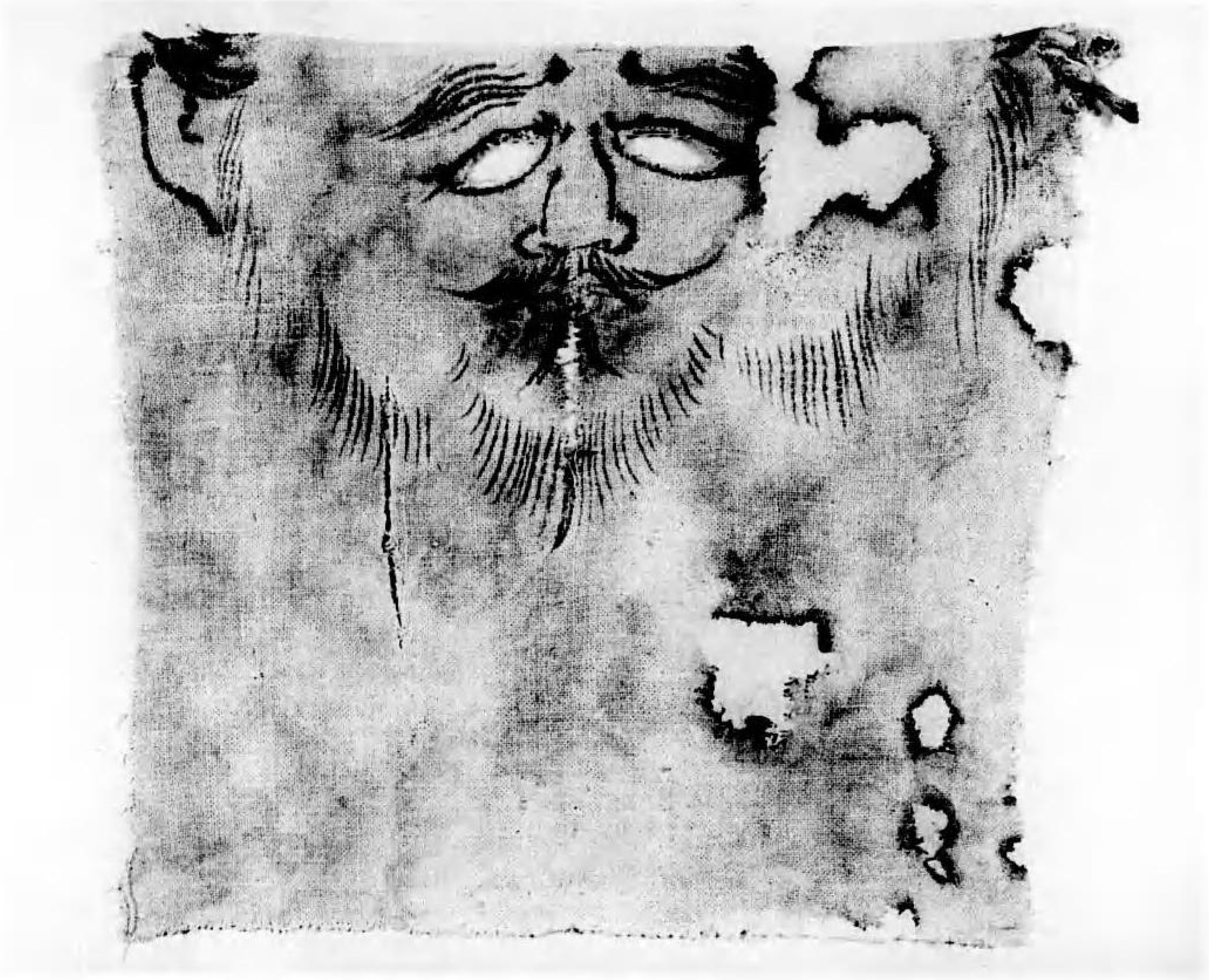
竪 三三・〇糎　横 三六・〇糎

眼尻の下つた八の字髭の面で、口と頰と耳はそれぞれ赤く染める。目は輪廓なりに透し、ひげは頰髯と頤鬚とを段にして描く。また鼻下と右頰に切傷がある。

布作面（第十六號）　（縮寫 2/5）

竪 三四・〇糎　横 三八・〇糎

下方の兩隅を撫丸形に切つている事と、結紐を二段に作つている事において、布作面中での珍物に屬する。線描もなかなか逵者で、口髭の邊最も優れ、目は輪廓なりに透し、頰と口と耳を赤く塗る。これにも鼻下に一本の縱切傷がある。



第六十圖　布作面（第十七號）（縮寫 2/5）

竪 三四・〇糎　横 三七・〇糎

相當の破損はあるが、眉・鼻・口・耳・ひげ等の描法の前掲十六號面に類似するは、以つて兩者が同人の作たるを思わせる。目は三角形に透し、耳をのみ赤く染めている。また結紐を二段に作る。

布作面（第十八號）（縮寫 2/5）

竪 二九・〇糎　横 三五・〇糎

鼻の描法が特異であり、又頬髯を卷毛に作るも珍らしい。口は赤に塗り、目は輪廓なりに透かす。右の結紐殘存す。

第六十一圖

布作面（第十九號）（縮寫 2/5）

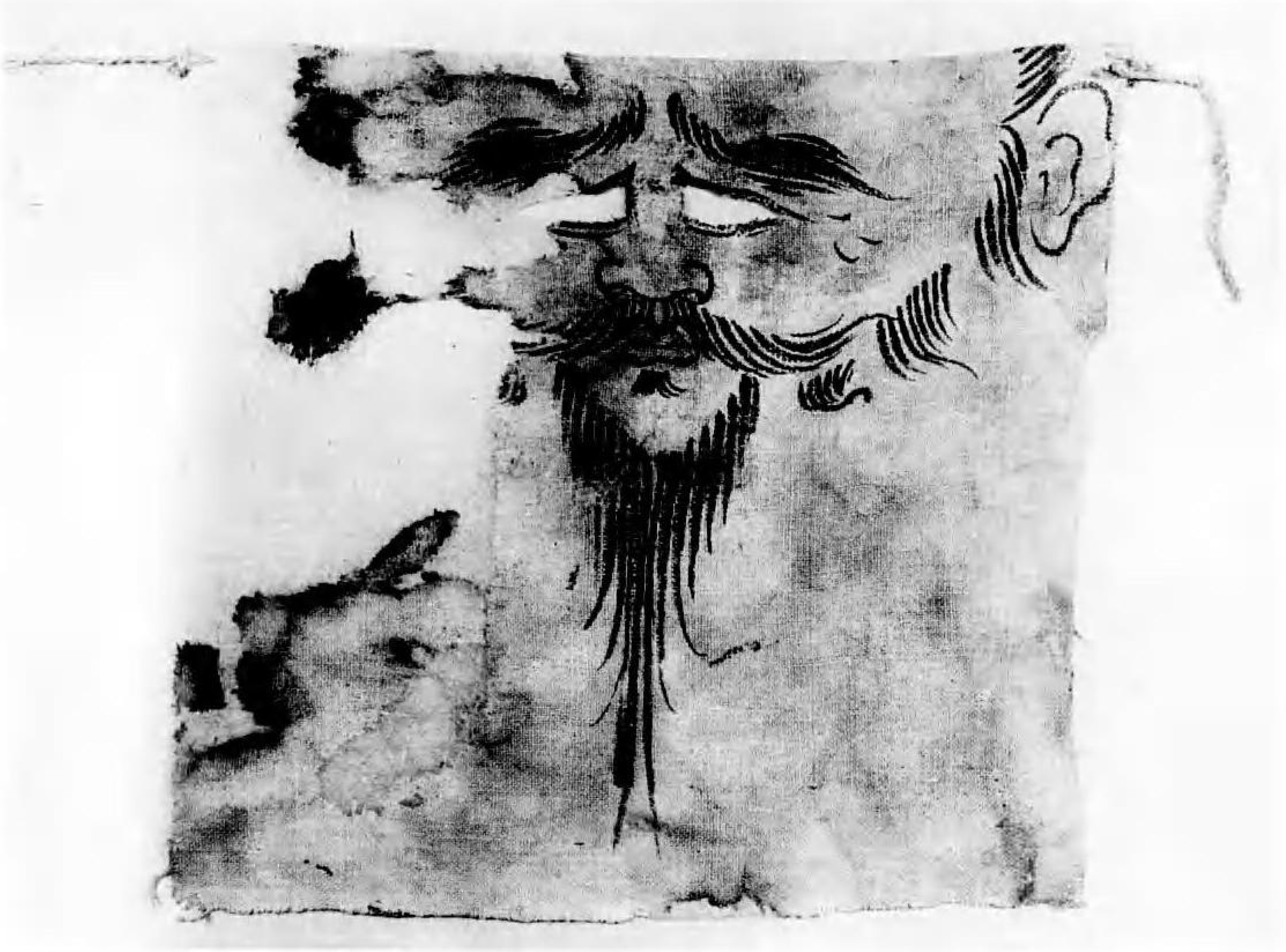
竪 三四・〇糎　横 三四・〇糎

眉・鼻・口・耳・ひげの描法より、十六・十七號面と同人作と思われる。目を三角に透し、頰・口・耳を赤に塗り、紐を二段に作る。頤と左頰に切傷がある。

布作面（第二十號）（縮寫 2/5）

竪 三五・〇糎　横 三三・〇糎

下方を撫丸形に作るは珍らしいが、目・眉・鼻・口・ひげの描線は素人のようにも思われる。目は輪廓なりに透し、頰と口は赤くそめ、結紐は左だけ舊物を殘す。頤にたての切傷がある。



第六十二圖　布作面（第二十一號）（縮寫 2/5）

竪 現存二五・〇糎　横 三四・〇糎

下半分を缺くが、正方形か竪長方形のものであつたろう。やや淡墨で描くが、描線は濶達で五十六圖の布作面第十號と同一人作と思われる。耳・眉の描法の類似は一層その感を深くする。目は輪廓なりに透し、頰は赤く染め、又口の下に縦切傷がある。

布作面（第二十二號）（縮寫 2/5）

竪 三四・〇糎　横 三四・〇糎

正方形の麻布の上半に描き、眉並口髭の描法には獨特の癖がある。目は輪廓なりに透し、頰は赤く染め、又口下と右頰には故意の縦切傷がある。

第六十三圖　布作面（第二十三號）（縮写 2/5）

竪 三五・〇糎　横 三九・〇糎

顔面部の破損は多いが、布の竪横が完全であるだけでなく、結紐も二つ乍ら残つている。この面にも口から頤にかけて縦に一本の切傷がある。

布作面（第二十四號）（縮写 2/5）

竪 三五・〇糎　横 三五・五糎

—

二段につけた結紐のつけ方がはつきり判る。眉・目・鼻・耳・ひげ等の描法は五十八圖十四號面に似て、彼と同人の作と思われる。目は輪廓なりに透し、右頬に故意の切傷がある。

第六十四圖　布作面（第二十五號）（縮寫 2/5）

竪 三五・〇糎　横 三八・〇糎

破損甚しく襤褸をのばしてやつとこれまでになつたものである。眉・目・鼻の描法たどたどしく素人臭いところが多い。目は黒眼を描き下瞼を切り透している。黒眼をかき下瞼を透した布作面は前掲第九號面とこれだけである。

布作面（第二十六號）（縮寫 2/5）

竪 三五・五糎　横 三六・〇糎

これも破損が酷いが、目は輪廓なりに透したもののようであり、口と頬は赤く塗る。眉・鼻・ひげ・耳の描法は布作面第十號に似る。なお鼻下正面には故意に作つた縦の切傷がある。

第六十五圖　布作面（第二十七號）（縮寫 2/5）

竪 三〇・〇糎　横 三一・〇糎

鼻の描法に特徴があり、前掲の布作面第七號第十一號と同人の作と思われる。前二者に比して破損が多いが、なお頬と耳と口には赤を塗り、目は十一號面と同様黒眼の部分だけをすかしている。又鼻下に縦の切傷を見る。

布作面（第二十八號）（縮寫 2/5）

竪 三二・〇糎　横 二九・〇糎

左半分を缺くが、その表現には從來に見ない手法が多い。目において下瞼を切り透しただけでなく、瞳孔をも透している事は、これまでにない手法であり、又目の形や、耳の恰好、口髭の描法等も普通とは變つている。

第六十六圖　布作面（第二十九號）（縮寫 2/5）

竪 三四・五糎　横 四〇・〇糎

顏の大部を缺き、耳と頤鬚と口髭の一部をのみ殘す。耳の描法は十六號面にやゝ似るが、線描に力がない。なお、この面の結紐は二段式であつたらしい。

布作面（第三十號）（縮寫 2/5）

竪 現存 二〇・〇糎　横 現存 二〇・〇糎

右上の四分の一だけを殘すが、眉・目・耳・頰髯・口髭の一部を殘し、從つてその全形もある程度想像される。その尻下りの眼と耳の描法は布作面第十三號（第五十八圖）に酷似し、また同人の作ではあるまいか。頰に赤色を塗り、結紐は二段式と思われる。

[illegible]

赤沿面（[illegible]）

[illegible]

第六十六圖　赤沿面（[illegible]）

第六十七圖　布作面（第三十一號）（縮寫 2/5）

竪　現存 二九・〇糎　横　現存 一七・〇糎

右頬と眉の一部を殘す。耳朶に貫孔をあらわしているのは布作面ではこれだけである。なお一方だけではあるが二段式結紐の制を完全に殘している。

布作面（第三十二號）（縮寫 5/2）

竪　現存 二〇・〇糎　横 三・〇〇糎

口から下と左頬の全部を缺くが、線描は確かで且つ深みがあり、布作面第一號と同一作者ではあるまいかとさえ思われる。

× × ×

以上三十二枚の布作面は製作的には數人の作者に類別され、刳眼の技巧にもいろ〳〵の別があるにも拘わらず、その表現の對象が、女性の一面以外、全部が男性である事は大いに考えさせられる問題である。伎樂面において吳女面以外が全部男性面である事を思い合せて、性別的には布作面と伎樂面とは甚だ相似た條件にあるといわねばならぬ。しかしながら男性面について更に深く考察するとき、伎樂面には、少年あり壯者あり老人あるに拘わらず、布作面には老人も少年もなく、一樣に壯年者を表わしているようである。この兩者の相異こそ、布作面は伎樂面の略形でなく、別の立場、別の使途にあつた事を察せしめるものといえよう。

昭和三十年一月十六日印刷
昭和三十年一月二十五日發行
第拾八輯（定價五千円）
著作權所有　文化財保護委員會
編集　東京国立博物館

編集　東京国立博物館
著作権所有
発行者　文化財保護委員会
第八冊　定價五十円
昭和二十六年三月二十五日發行
昭和二十六年三月二十日印刷

終